

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待をした回る 1：改善を要する

○ 【学校教育目標を達成するための重点目標：「知」「徳」「体」「食」の調和のとれた、これからの時代を「強く生き抜く力」を身に付けた生徒を育成する】

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等 ○よかった ●反省点 ▲課題 ※改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点取組：「自ら学ぶ生徒」育成プロジェクト <手段> 1 学習で習得したことを自分の生き方に活用できるキャリア教育の推進 <具体的な数値目標等> ○ 「学びたい度」65%以上 ○ 生徒の意欲を高め、理解を深める問題解決的な授業の構築 <具体的な取組> (1) 授業等における地域人材等（よのなか先生）の効果的な活用を図る。 (2) 個の考えを集団で練り、再度個で深める学習（三松メソッド）の実践をする。 (3) 総合的な学習の時間及びこすもす科の確実な実践をする。	<1について> ○ 地域の方々に講話や授業の手助けに来ていただき生徒の興味・関心を高め、学習を深めることができた。 ○ 1年は農家民泊・学年道徳・13歳のハローワークと人材活用ができた。 ● キャリア教育につながったかが分からない。 ▲ 地域人材を各教科で活用するのは難しい。全教科実施ではなく、活用できる教科で実施であれば可能だと思う。 ※ より効果的な活用法、次からの授業へ繋げる活用法を考える必要がある。	2.6		○ 多職種の方々から直接、話を聞く「13歳のハローワーク」の取組や歴代の校長先生による受験前の面接指導等、社会人と接したり将来像を思い描くいい機会であり効果も期待できると考える。 ○ いろいろな取組をされていて関心を持ちました。 ▲ 学校外部の方からすると学校での取組が余り見えてこないと思いました。
	2 分かりやすい授業づくり <具体的な数値目標等> ○ 1月実施の実力テストの総合が各学年とも地区平均以上 ○ 授業中にICTを活用する教員 86%→94% ○ Web学習単元システム 100%活用→100% ○ 英語検定取得率45%以上 → 受験への意欲付けと合格への支援 ○ 各テスト結果分析と問題分析を踏まえた授業改善、補充指導等の徹底による学習指導の充実 ○ 教育研究会での取組内容の実践 ○ 工夫・改善し、達成感と活気ある授業の実践 ○ 学習の規律（しつけ）徹底 ○ 計画的に継続して行う毎日の家庭学習への支援 <具体的な取組> (1) 各種検査結果分析による実態把握と実態に応じた指導法の工夫・改善をする。 (2) 基本的な指導技術（発問や指示、板書、テンポや間など）の確認をする。 (3) ICT機器の効果的活用、Web学習単元システムの100%活用、英検受験を推進する。 (4) 1分間スピーチ「MST（三松スピーチタイム）」を実施する。	<2について> ○ Webデザイナーと協同で教材を開発し実践・検証・改善を継続して行うことができた（技術・家庭科）。 ※ より効果的な活用法、次からの授業へ繋げる活用法を考える必要がある。 ※ 三松メソッドの実践は、意識をして授業実施計画を考えれば、単位の中で必要な部分のみ実施することはできると思う。 ▲ こすもす科の内容を実施していると1年の総合時数が足りない。 ● 定着を図るためのコミュニケーション活動が少なかった。 ※ALTを有効に活用し、どの場面で使う表現なのかを理解させる。 ※ロールプレイングを行い、役割によって使用する表現が異なることを学ばせる。 ● 教科指導の中で、導入で生徒に関心を持たせる工夫が必要だった。 ▲ テスト結果の分析から十分な対策ができたか。 ▲ 学習（目的意識）への個人差が大きい。家庭（保護者）の意識の差もあると考えられる。 ▲ 考える内容のものになると解こうとしない傾向がある。 ※ 総合的な学習の時間を計画的に実践するとともに、活動の流れや評価を生徒に示すことで見通しをもって自ら学ぶ生徒の育成をしたい。 ※ 学びの確認を充実させたい。 ※ 映像資料・音源を活用しつつ生徒が自ら学ぶ姿勢を養うため意見交換の活動を多く実施する。 ※ 学習の規律（開始黙想・立腰）を生徒たちに徹底させるため、掲示を効果的に利用したり、学習のはじめで念を押したりする。 ○ Web単元システムを完全実施している。また結果をもとに振り返りを行うことができた（数学科）。 ○ デジタル教科書や関連資料（パワーポイント）をほぼ毎時間活用した。 ● テストの分析はしてきたが、発問や家庭学習（課題）に反映できなかった。 ○ タブレットの効果的な活用方法について工夫・改善を図りながら取り組んでいる。 ○ 各学級でMST（三松スピーチタイム）を実施している。 ▲ MSTの方法や題の設定を細かく決めた方が全学級同じように実施できると思う。	2.5	3.0	▲ 先生方のコミュニケーションも生徒たちの学力を上げるためには大切かと思えます。 ※ 個々で確かなノウハウを持つのではなく、話し合い（ミニ会議）できる場を持つことも重要ではないかと思えます。 ○ 三松メソッドはとても良いと思うので続けてほしい。 ○ 1分間スピーチは、みんなの前で自分の思ったこと、感じたことを言えるとても良い機会、社会にとても必要なことなので実施してほしいです。 ※ 小・中学校9年間で人生の基礎を学ぶ。学校だけでなく家庭、地域で学ばないといけないことがある。学校・家庭・地域がいかに連携をして具体的にどんなことに取り組んでいくか十分に検討し、対応していくことが大切である。これまで以上の連携が必要だと思われる。
	3 「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢の育成 <具体的な数値目標等> ○ 授業の基盤となる態度の育成 ○ 集会時の体育館への移動⇒無言 移動の徹底	<3について> ▲ 基本的な学習習慣「人の話をしっかり聞く」「授業中の態度」など、定着していなくて繰り返し指導したがまだ十分とは言えない。 ▲ 当たり前のことが当たり前にできない。その当たり前のことがわか			

	<p><具体的な取組> 時間を守る、立腰、返事、声の大きさ、相手の意見を聞くなどの基本的な学習態度の共通理解（職員・生徒とも）と定着のための粘り強い指導を継続する。</p>	<p>らない生徒がいる。 ▲ 状況判断ができず、声量や内容を考えずに話をする生徒がいる。 ※話を聞く時間を設定する。 聞き取りテストタイムなど ※時と場に応じた言動について、細かく指導の手立てを講じる必要がある。 ● 体育館への移動を無言でできないことがありやり直しがあつた。 ○ 授業での始まりと終わりで確認をしながら礼をすることができた。 ● 生徒会役員を中心に集団行動の呼びかけをしたがやり直しが多かつた。 ○ 1分間黙習は全体的にできていた。 ▲ 立腰の徹底はまだまだ。全教育活動での指導が必要。 ▲ 返事については習慣化させる必要がある。</p>	2. 5		
徳 育	<p>重点取組：「誇りと思いやりの心をもつ生徒」育成プロジェクト <手段> 1 生涯にわたってみんなが幸せになる挨拶の促進 <具体的な数値目標等> ○ 礼法指導及び立腰指導と基本的な生活習慣の確立「当たり前のことが当たり前」の徹底 <具体的な取組> (1) 時と場に応じた挨拶の指導を徹底する。 (全体での具体的な指導と継続的な常時指導)</p>	<p><1について> ▲ こちらが声をかけても返さない生徒がまだまだいる。 ● あいさつの指導は随時しているがなかなか徹底できていない。 ▲ 返事の指導の徹底を図る必要がある。 ※集会での表彰などの場面は何度もやり直しをさせる。 ※学級の時間の充実を図る。主題研で学年集団づくりをテーマで取り組む。 ● シャツ出しやボタン無し等の服装については何度指導しても改善しない生徒がいた。 ▲ 基本的な習慣が身に付いていない生徒がいる。 ※時と場に応じた言動ができるように訓練をする。 ※徹底した指導 ▲ 自己の基準で物事を見て周囲と折り合いがつかない生徒もいた。</p>	2. 5	2. 7	<p>● あいさつ等の基礎が備わっていないため先生方の指導を受け止めることができない生徒が増え、落ち着きのない生徒が目立ってきている。各家庭のしつけに関する認識の低さが根底にあると思う。保護者の意識改革が必要ではないかと痛感する。 ● 自ら進んであいさつをする生徒は少ないと思いました。 ※ 道徳の時間を重視 ※ 人にはそれぞれ価値観があり、いろいろな考え方があることを議論させながら、生徒たち一人ひとりに問いかけることが必要ではないかと考えます。 ▲ 時と場に応じた言動は、学校だけでは難しいので家庭での訓練も必要ではないか。 ▲ SNSのトラブルは、犯罪に巻き込まれる可能性が高いので、家庭の指導が大切だと思う。 ▲ リーダー育成が必要だと思います。一人のリーダーに任せるとは分担任が必要ではないでしょうか。次の世代のリーダーにも任せていくのも大事では・・・。 ▲ 生徒会にもある程度、自主性を認めるとやりがいも生まれてくると思います（文化発表会等）。 ● 自分中心で他者への思いやりや協調性が育まれていないと思う言動を目の当たりにした。厳しい評価をさせていただきます。 <要望> 元気で明るく誇れる三松中のあるべき姿を取り戻してほしいと節に願います。 ○ みまつ協働体主催のみまつ食堂では話し合いの場から校長先生に参加いただき感謝します。生徒ボランティアの参加もあり嬉しく思います ▲ 生活習慣の乱れの原因に、携帯・スマホの利用の仕方に関する問題がある。携帯・スマホの利用に関して、地区でルールを決め、地区を上げて対策を講じてはどうか・・・。 ▲ 親育の必要性を感じる。</p>
	<p>2 自己指導能力を育む積極的な生徒指導の推進 <具体的な数値目標等> ○ 生徒作成のスローゲンを活動につなげる。 ○ 「生徒総会」で討議した内容の実践 ○ 生徒会役員の育成 <具体的な取組> (1) 各教育活動で生徒指導の三機能を働かせる。 (自己存在感をもたせる、共感的な人間関係を育成する、自己決定の場に与える) (2) 生徒会活動の活性化による自治能力を育成する。 (自ら考え、行動する生徒会の育成)</p>	<p><2について> ▲ リーダーを育てる必要がある。 ※ 職員が育てるリーダー研を計画的に実施する。 ※ 生徒会の動きがみえるようなものを年間通して実践。 (生徒会活動の活性化) ※ 生徒自身であいさつが活発になるような学校にできるように生徒会を中心に指導していくとよい。 ※ 自分たちから企画・立案できるような生徒会にできるといい。 ● 学年生徒会のような動きをすることもっと自己決定+自治能力が身に付いたのではなかったかと思う。学年集会がほぼない。 ▲ 昼休みにも業務を行わないといけなため打合せの時間が少ない。やらせればやれる生徒は多い。 ▲ 相手を思いやる言動ができない生徒がいる。</p>	2. 5		
	<p>3 温もりがあり、互いを高め合う学級・学年づくり <具体的な数値目標等> ○ 不登校0、いじめ解消率100% ○ 読書 一人平均16冊以上 <具体的な取組> (1) Q-Uの分析結果を学級経営に反映する。 (2) 道徳教育、人権教育の充実を図る。 (3) 日常観察やアンケート等による情報収集と問題に対する組織的で早期の対応をする。</p>	<p><3について> ○ Q-U分析を常時反映させている。 ▲ SNSのトラブルがある。 ▲ 友人間のトラブル等は少なくなってきたが、同じ生徒が繰り返す傾向がある。 ● 学級の時間の充実を図る。 ※ その都度、個人・全体への指導をしていく。 ▲ いじめに関してアンケートを実施したが結果としてはいじめが存在することがわかった。 ※ 生徒集会などを利用していじめを解消させるための手立てを全校で考えさせる。 ● 本を全く読まない生徒がいる。 ● 残念ながら不登校がいる。専門機関との連携を進めているがなかなか改善の見通しが立たない状況である。</p>	2. 5		

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待をした回る 1：改善を要する

○ 【学校教育目標を達成するための重点目標：「知」「徳」「体」「食」の調和のとれた、これからの時代を「強く生き抜く力」を身に付けた生徒を育成する】

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等 ○よかった ●反省点 ▲課題 ※改善策等	自己 評価	関係者 評価	結果の考察・分析及び改善策等
体 育	重点取組：「進んで心身を鍛える生徒」育成プロジェクト ＜手段＞ 1 体力の向上 ＜具体的な数値目標等＞ ○ 体力テスト48項目中35項目以上が県平均以上 ⇒課題改善に向けた体力向上への手立て：体力向上プランと 日常化 ＜具体的な取組＞ (1) 体力向上プランの共通理解（職員、生徒、保護者）と計画的 実践を行う。	＜1について＞ ● 全体での共通理解ができていない。 ※ 体力向上プランを共有できると全職員で指導ができるのではないか ※ 体力テストの結果は良くなかったが体を動かすことが好きな生徒と 苦手な生徒の二極化が進んでいる。日常的に体を動かすことの意義や 楽しさに気付かせることが大事である。 ※ PTAから体育大会、ロードレース・駅伝大会で協力をさせていただ いているが、具体的な数値目標や現状を踏まえた大会目標や主旨を共有した 上で協力をしてもらおう。	2. 5	2. 9	○ むし歯治療率の高さに驚きました。家庭と学校の連携がよく とれていると思いました。 ▲ 体力向上について、小学校ではスポーツ加入者が減少して いると関係者の声がある。 ※ 体力テスト県平均以上の項目が多数できるように部活動を盛 り上げてほしい。 ● ロードレース・駅伝大会中に応援もしないでふざけていた 生徒数名に声をかけたが「ここへ来たら応援する」と近くを 走らなければ無関心な生徒がいた。大半の生徒は大きな声で 応援していたが一部の生徒で印象が悪くなったのは残念に思 う。 ● PTAからの協力を得るためには、主旨説明も必要では……。 とにかく協力をお願いしますだと”やらされ感”が強いかも。
	2 健康・安全教育の推進 ＜具体的な数値目標等＞ ○ むし歯治療率85%以上 ○ 肥満対策により、4月16人を13人に減らす。 ＜具体的な取組＞ (1) 自分で健康管理ができる力の育成する。 (2) むし歯治療の必要な生徒への具体的指導と啓発をする。 (3) 学校保健委員会を活用した、保護者と連携した健康教育の 充実を図る。	＜2について＞ ● 生徒・保護者に啓発しているが目標まで到達できていない。医療費 の負担（免除）を考えると100%にしたい。 ● 健康管理の指導が不十分だった。 ※養護教諭との連携をとり、計画的に指導を行う。 ● 自己管理ができず、体調不良で欠席をすることが多かった。	2. 5		
食 育	重点取組：「進んで心身を鍛える生徒」育成プロジェクト ＜手段＞ 1 食に関する指導と「弁当の日」の充実 ＜具体的な数値目標等＞ ○ 自分で作った弁当を持参する生徒100% ○ 残食0% (H30. 主食1.6% 副菜1.3%) ＜具体的な取組＞ (1) 栄養教諭等と連携した食に関する指導の充実を図る。 (2) 保護者・生徒に対する「弁当の日」の意義を啓発する。	＜1について＞ ● 弁当の日を計画的に実施しているが、生徒・保護者とも意識が低い のではないか。 ● 保護者に「弁当の日」の意義がきちんと伝わっていないのでは？生 徒自らが作ってくる生徒が少ない。 ○ おかず一品、おにぎりを工夫し弁当をつくっていた。弁当の写真を 通信などで紹介した。 ○ 栄養教諭と連携した授業を行うことができた。 ● 数値目標を達成できていない。 ※ 家庭科の専科教員を配置できないか（食育の充実のために）	2. 5	2. 8	▲ なぜ食育が大事なのかそれをもっと生徒・保護者に話をし ていかないと「弁当の日」の意識も低いと思います。 ▲ 「弁当の日」の目的やねらいを生徒や保護者に周知してほ しい。取組から何を得るのか理解していない保護者が多いと 思う。
	2 マナーを高め、感謝の心を育てる給食指導 ＜具体的な数値目標等＞ ○ 食事のマナーの向上 ＜具体的な取組＞ (1) 毎日の給食の時間におけるマナー等の継続指導をする。	＜2について＞ ● 給食時間のマナーは概ねいいが、食べるのに時間がかかるため返却 時間が遅くなっている。 ▲ 嫌い、おいしくないと言って平気で残す生徒がいる。 ● 給食準備中の話声がなかなかおさまらない。 ● 食事の指導が必要な生徒がいる。 ※静かに食事をする雰囲気づくりをする。 ● 給食時間のルールの徹底やマナーカードの提示など学級間で差があ る。全学級で共通に実施する。	2. 6		
	重点取組：職員の意識向上 ＜手段＞ 1 見通しをもって、意図的・計画的に ＜具体的な数値目標等＞ ○ ひと月当たりの時間外業務80時間以上ゼロ ＜具体的な取組＞ (1) 机上周りの整理整頓を行い、業務の効率化を図る。 (2) 「To do リスト」等を作成し、計画的に業務を推進 する。 (3) SSS（スクール・サポート・スタッフ）との連携を図る。	＜1について＞ ● 8月以外は時間外業務80時間以上ゼロの月はない。業務等の見直 し・改善を行ってきたが全体の業務時間を大きく縮減するには至って いない。 ● 働き方改革を進めてきたが、改善までは至っていない。これからも教 育課程等の見直し・改善を図っていく必要があると思われる。 ● 時間を効率的に、業務を効率的に進められるようにしたいが習慣化 するまでにはまだまだ時間がかかりそうである。 ● 業務の内容・量ともに勤務時間内で消化することは無理である。計 画的と言われてもその時期にしか対応できないものが多くあり、業務 が重なる。	2. 4		▲ 「働き方改革」と言ってもなかなか難しい面がある。職員 の絶対数が足りないのでは…？ ▲ 教材研究や部活動、クラス指導等、本当に多忙だと思います。 業務の見直しで少しでも負担が減るといいと思います。 ▲ 熱心な指導や指示が通らず先生方の疲弊が伺えます。

その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ SSS（スクールサポートスタッフ）の配置により、印刷業務等、かなりの負担軽減になった。次年度以降も配置をお願いしたい。 ▲ 生徒指導に要する時間が多く、他の業務を時間外にせざるをえない状況がある。 ● 1日に複数の仕事が被ることや職員間の協力を得られない場合もあり、時間外80時間以内の勤務には無理がある。可能限り分業を行ってほしい。担当をしっかりと振り分けてほしい。 ※ 「To do リスト」を活用したい。 		<p><要望> 生徒や先生方が達成感を得られるよう生徒が稚心を捨て変容することを望みます。</p> <p>※ 先生が生徒に指導できる時間に余裕がもてるように先生たちから要望を聞き、改善策を市や県に提出することが必要ではないかと思えます（他県の成功例などを参加校に）。</p> <p>※ 学習指導要領により教育をされているところでありますが、「地域とともにある学校」づくりが重要視されています。指導要領の変化とポイントを理解することが大切だと思う。これらを理解しながら地域と学校との関係を構築していく。</p> <p>○ 掲示物はいつ行ってもきれいです。</p>
	2 共通理解・共通実践 <具体的な数値目標等> ○ 「いい加減でも良い」ということを教えるようなものにしない <具体的な取組> (1) 教えるべきことは具体的にしっかりわかるまで教える。 (2) できるまで、見届ける徹底した指導を行う。	<p><2について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● できるまでの指導は徹底できていない生徒がいる。 ● 学校として、学年として何をいつまでにするのか見通しを持っていない。いきあたりばったり感がある。 ○ 授業の中でわかるまで教えるように心がけている。補充学習が必要な生徒には声かけている。 ▲ 「○○先生は、何にも言いませんでした」という声が出ることはないように、共通理解・実践がもう少しほしい。 	2. 7	
	3 言語環境を整える <具体的な数値目標等> ○ 授業中の呼名⇒「くん・さん」の敬称付け ○ 適切な言葉、丁寧な文字 <具体的な取組> (1) 人権教育の観点からも個を大事にする指導を展開する。 (2) 授業や子どもとの会話の中でも意識的に適切な言葉を使い、板書等は子どもたちの手本となるような丁寧な文字を書くよう心がける。	<p><3について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 敬称をつけて呼ばないことがあった。 	2. 8	
	4 掲示物の充実 <具体的な数値目標等> ○ タイムリーで効果的な教育の効果を図る掲示物の更新 <具体的な取組> (1) 必要なものを必要な時、場所に、工夫・改善を図り、教育的効果の上がる掲示教育を行う。	<p><4について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会役員が掲示物を頑張っている。 ○ 季節に合った掲示物を作成し、学習意欲を引き出せるような設営を行った。 	2. 7	

<p>次年度の方向性についての 校長所見</p>	<p>昨年度に比べると全体的に自己評価の数値が低くなっている。職員の指導面での反省や子どもたちの課題に対して、具体的な対策を講じていきたい。大きな課題として、「学力向上」と「心の成長」を中心に取り組んでいきたい。各項目については以下のとおりである。</p> <p>知育：授業改善の4+4のチェックポイントを意識した授業実践、三松メソッドの実践、地域人材を活用したキャリア教育の推進</p> <p>徳育：心の教育の充実、時と場に応じた言動ができる生徒の育成、道徳科授業の充実</p> <p>体育：体力向上プランを生かした全体的な体力の向上、健康教育の充実</p> <p>食育：食育の推進、家庭への啓発を行い、弁当の日の充実、給食指導を含め日常指導を実施</p> <p>その他：「働き方改革」への計画的な取組</p> <p>本校の課題に対して、より具体的な対応・対策を検討し、計画的・継続的に実践し、課題の克服に全力を尽くしたい。</p>
------------------------------	---